

市街化区域内の農地の将来を考えるアンケート

集計報告

平成27年10月

序章 調査の概要

(1) 調査の目的

岩倉市では、『多様な縁で創る「役立ち感」に満ちた市民社会をめざして』を基本理念として掲げた第4次岩倉市総合計画に基づいて市政運営を進めています。また、全国的に人口減少や少子高齢化が進んでいる中、本市では、住みやすいまちづくりを進めるための戦略（計画）づくりをスタートさせたところです。

そこで、住宅と田園環境（農地）とが調和した潤いのある良好な市街地形成、快適で住みやすいまちづくりを進めていくための基礎資料を得ることを目的に、「市街化区域内の農地の将来を考える」を実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

①調査対象

平成27年7月時点で市街化区域内に一定の面積以上の農地を所有されている市民446人

②調査方法

郵送配付・郵送回収方式

③調査期間

平成27年9月2日から平成27年9月16日までの期間

(3) アンケート票の配付・回収状況

表0-1 配付・回収状況

配付数	有効回収数	有効回収率
446	256	57.4 (%)

(4) グラフの見方等

グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフやダンゴ形のグラフを用いて表現しています。

図中の構成比 (%) は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入していますので、合計は必ずしも100.0%にはなりません。

一部のグラフにおいては、「不明（回答なし）」は省略してあります。また、設問のカテゴリー（選択肢）などの表現は、一部省略してある場合があります。

第1章 あなたのことや農家のタイプなどについて

(1) 性別・年齢 (問1)

問1 あなたの性別・年齢をお教えてください。

回答者の70.3%が「男性」で、年齢は65歳以上の高齢者が66.4%を占めています。

図 1-1-1 「性別」

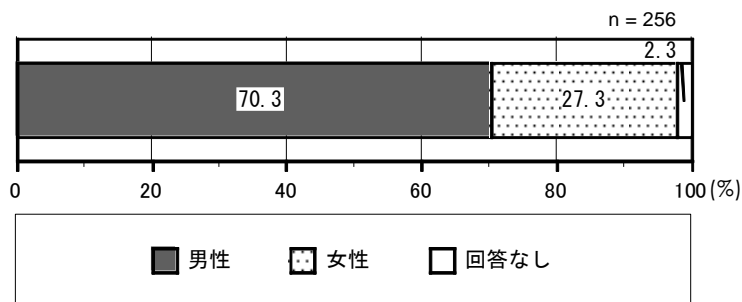
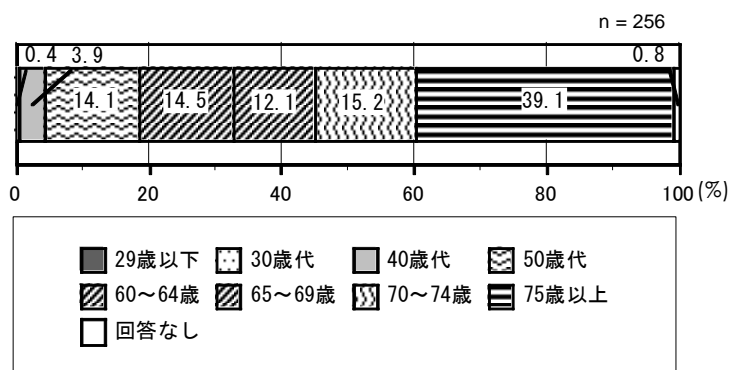


図 1-1-2 「年齢」

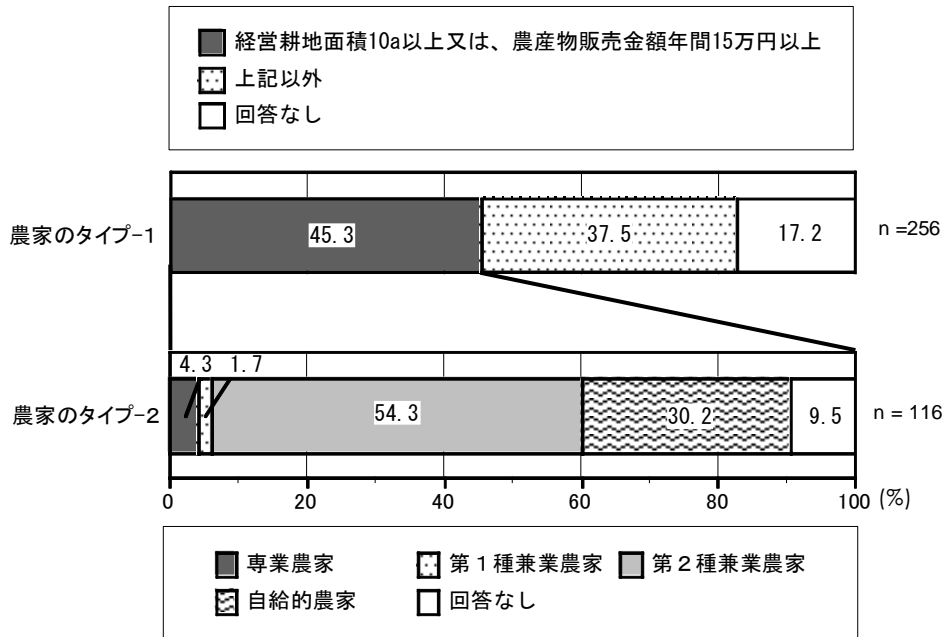


(2) 農家のタイプ (問2)

問2 あなたの家の農家のタイプは、次のうちどれですか。

農家（経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯、又は、農産物販売金額が年間15万円以上ある世帯）は全体の45.3%で、そのうち、8割以上が農業収入を主としていない「第2種兼業農家」と「自給的農家」です。

図1-2 「農家のタイプ」

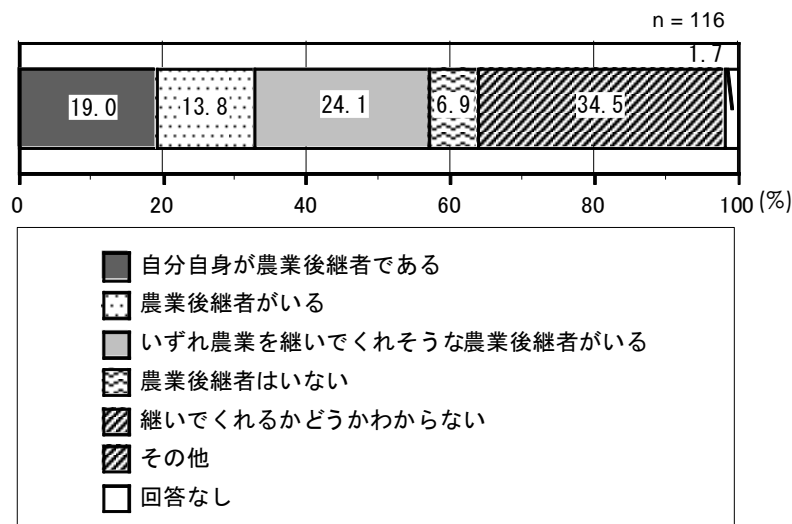


(3) 農業後継者の状況 (問3)

問3 あなたの家における65歳未満の農業後継者の状況は、次のうちどれですか。

過半数が、農業後継者がいるか、あるいは、そのあてがある人によって占められています。

図1-3 「農業後継者の状況」



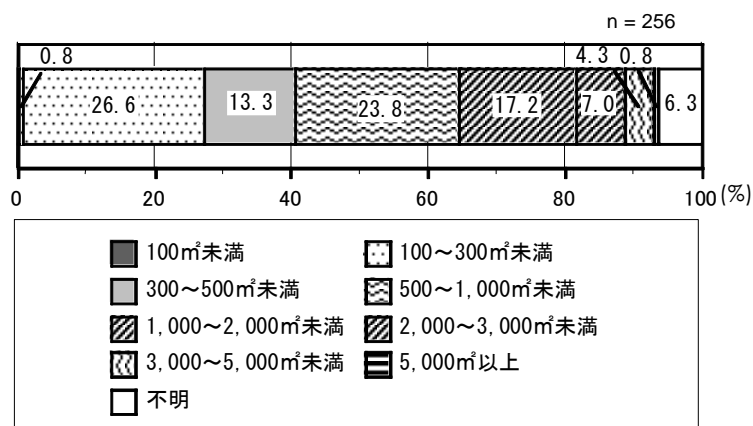
第2章 市街化区域内における農地の所有状況と今後の意向について

(1) 市街化区域内に所有する農地面積（問4）

問4 あなたは、合計でどれくらいの市街化区域内の農地を所有していますか。その面積を下表にご記入ください。

10 a (1,000 m²) 未満しか市街化区域内農地を所有していない人は、全体の64.5%であり、一般的に小規模の農地しか持っていない人が多くを占めています。

図2-1-1 「市街化区域内に所有する農地面積」



(2) 市街化区域内における農地の10年後の状況 (問5)

問5 問4でお答えいただいた、あなたが所有している市街化区域内の農地について、10年後には、どのような状況になっていると思われますか。現在所有している市街化区域内の農地の合計を100%として、10年後のそれぞれの利用区分別に割合を数字でご記入ください。

所有している市街化区域内の農地の10年後の状況については、「農地として利用する」が、46.2% (109,183㎡) を占め最も多くなっています。岩倉市に対する住宅需要圧の受け皿として期待される「宅地に転用して他者に売却する」(13.4%、31,732㎡)と「(賃貸住宅や貸倉庫、駐車場などのための)宅地に転用して、他者に賃貸する」(11.8%、27,830㎡)は、合わせて25.2% (59,562㎡) になります。

図2-2-1 「市街化区域内農地の10年後状況」

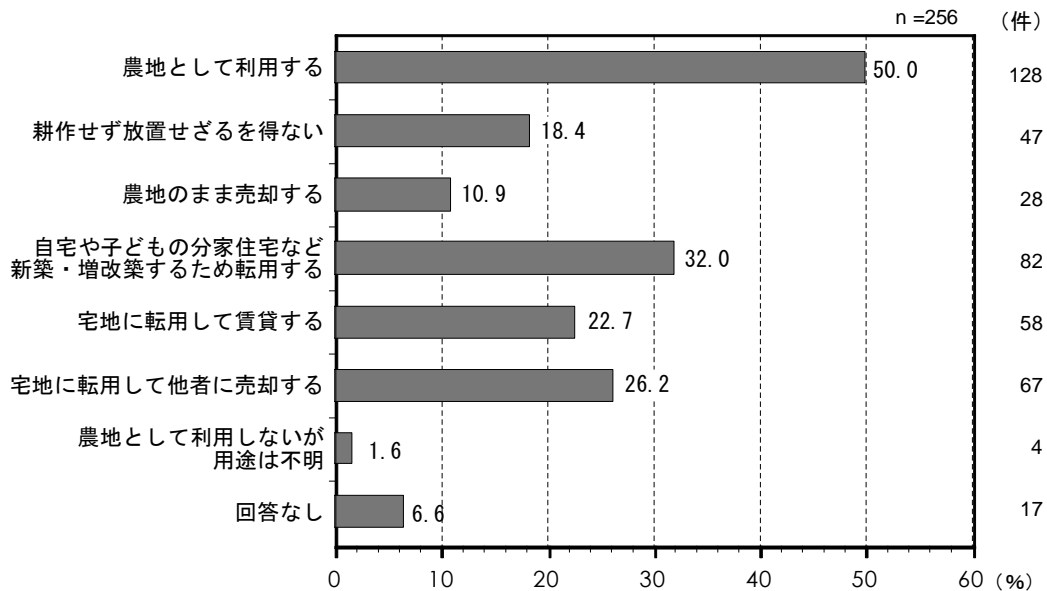
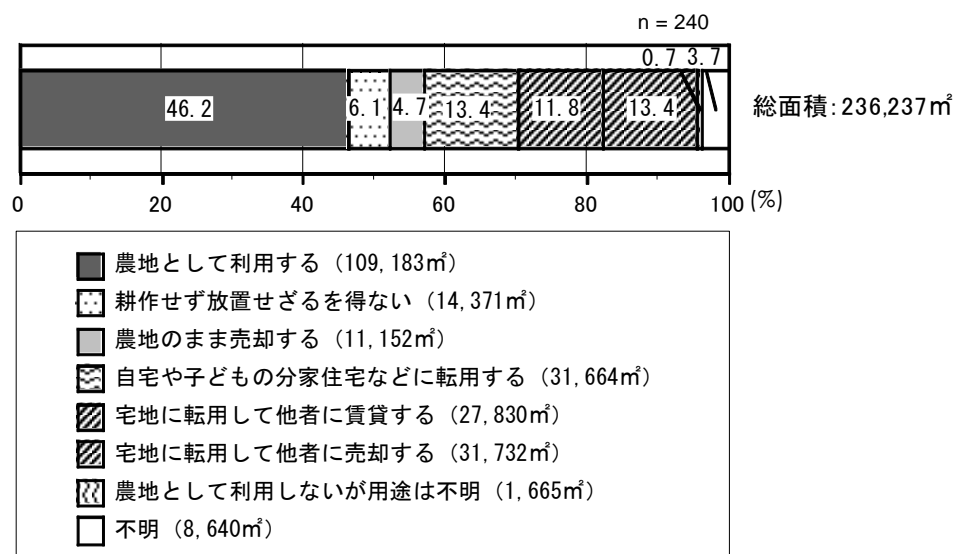


図2-2-2 「市街化区域内農地の10年後の状況 (面積)」

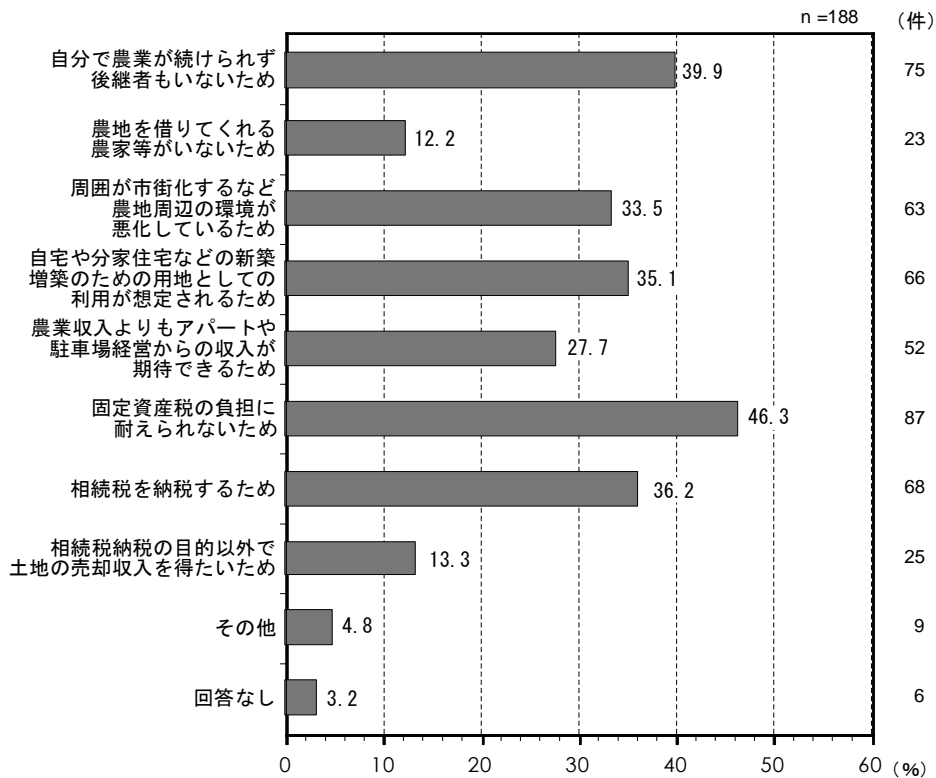


(3) 農地の売却や転用の理由 (問6)

問6 今後10年間に、農地を売却したり、転用したりしたいなどと思われた主な理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。

固定資産税や相続税といった納税のことや、農業後継者がいないことや営農環境の悪化などが、今後10年間に農地を売却したり、転用したりしたい理由になっています。

図2-3 「農地の売却や転用の理由」



第3章 市街化区域の農地の保全と開発の考え方について

(1) 市街化区域内農地の保全と開発についての考え（問7）

問7 あなたは、市街化区域内の農地の保全と開発について、どのようにお考えですか。あなたが現在お持ちの農地についてではなく、岩倉市全体のまちづくりの方向性として、あなたのお考えに最も近い番号1つに○印をつけてください。

「市街化区域内の農地を宅地化するか保全するかは、所有者に任せればよい」とする人も32.0%みられるものの、農地を保全すべきとする人が41.4%おり、農地は保全しなくてもよいという人を32.0ポイントも上回っています。

図3-1 「市街化区域内農地の保全と開発」

